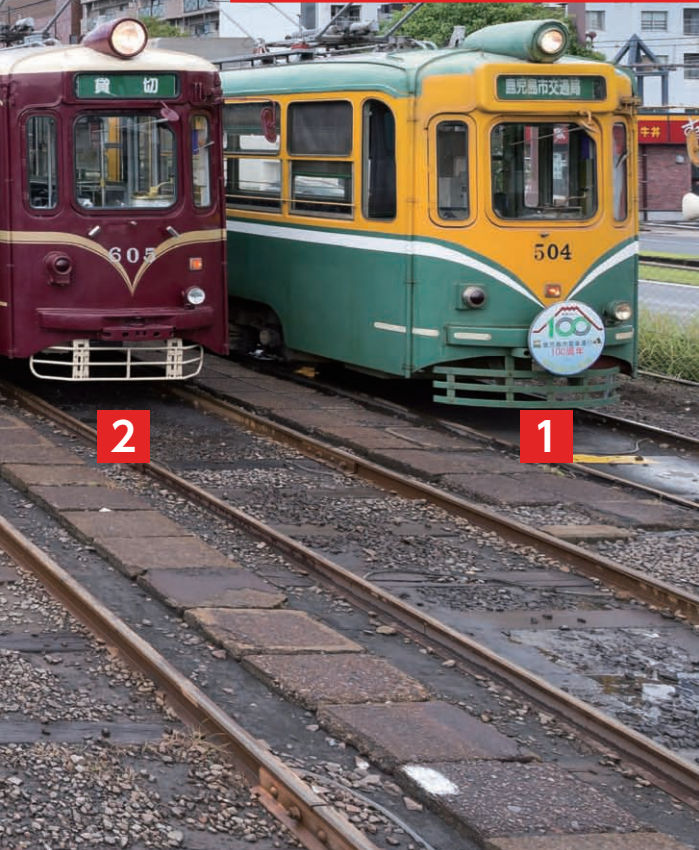


の車両
り散水
活躍し



▲散水中



▲芝刈り作業中

◆500形

昭和30年～31年に登場した、現在一番古い車両。512号は平成22年から世界初の「芝刈り散水電車」としても使用し、緑化軌道の保守に活躍中。

◆600形

昭和34年～37年に登場した車両。中でも605号は平成23年度まで「ビール電車」として運行してきた車両を平成24年7月から「イベント電車」にリニューアル。

【イベント電車】

◇車両装備…カウンターテーブル、椅子24脚

◇料金…1万6000円
(1時間半程度を目安)

詳しくは交通局電車事業課

☎257-2116へ



イベント電車でハロウィンパーティ

◆2110形

平成3年に登場した車両。全て姉妹友好都市を記念した電車。2111号は白・緑ベースの「鶴岡・大垣」号、2112号が青・白ベースの「マイアミ・パース」号、2113号が赤・白ベースの「ナポリ・長沙」号として運行中。



◆9500形

平成7年～12年にかけて800形の主要機器を流用し、登場した車両。この9501号は、芝と青空をモチーフとしたデザインのラッピング電車「eco電100th」で、電車運行100周年を記念して平成24年4月から運行中。

市電の仲間たち全員集合!

鹿児島市交通局では、現在54両を運行しています。そのほか、芝刈電車、イベント電車、花電車などもあります。



6

5

4

3

◆7000形

平成19年～20年にかけて登場した連接式の超低床電車で愛称はユートラムⅡ。平成23年3月からは観光電車としても運行しました。(平成24年12月からは「かごでん」(P.10)が観光レトロ電車として運行中。)

6

◆1000形

平成14年～17年に登場した車両で愛称はユートラム。日本初の国産超低床路面電車です。車内には車椅子スペースが設置されています。平成15年には鹿児島市交通局の車両として初の「ローレル賞」を受賞。

5



◆電車資料館

交通局内にあり、電車の運行が始まってからの貴重な資料や車両の部品などを展示。見学の際は、事前に交通局電車事業課 ☎257-2116へ (平日8時30分～17時)



◆花電車

「おはら祭」と「谷山ふるさと祭」を盛り上げる花電車(貨車)。現在は昭和54年に西日本鉄道から購入した「花2号」のみ活躍中。「花2号」は明治44年に製造され、平成24年で101歳を迎えたベテラン選手。

電車運行100周年を記念して・・・

観光レトロ電車「かごでん」

観光レトロ電車「かごでん」を製作し、平成24年12月1日よりついに運行をスタートしました!!

◇運行日…土・日曜日、祝日(1日4便)

◇所要運行時間…70分

◇運賃…大人320円、小児160円

※運行コースなど詳しくは交通局電車事業課 ☎257-2116へ



内装もレトロな雰囲気

日本最南端の電停

日本最南端の電停である谷山電停に標柱を設置。平成24年7月1日に除幕式を行いました。



記念グッズ発売



本体サイズ：
横約10センチ
(台座付き)

※発売場所など詳しくは交通局総務課 ☎257-2102へ

かごでんプルバックカー(1200円)、かごでんピンバッジ(400円)、絵はがき(3枚入り300円(2種類))、車掌かばん(復刻版)(1万8900円)、100周年記念ラピトレカ(2枚組2000円)
※車掌かばんは受注販売となります。



普段出かけるときは、よく市電を利用しています。社会人の頃、仕事でよく上町線を利用していたので思い出深いですね。

市電は便利でのんびりと景色を楽しむことができ、今でも車中からまちの新発見をすることもあるんですよ。また一日乗車券や共通利用券のキュートを利用して市内を散歩するのも好きで、同窓会などでも利用しています。これからも市電がいろいろな施策に活かされることを願いながら、利用し続けていきたいですね。



鈴木 和子さん

小学校に通学するため、市電を利用しています。乗り降りしやすく、運転手さんもとても優しいです。

学校で電車運行100周年をテーマにした授業があり、僕は軌道敷緑化を調べました。緑化はきれいに見えるだけでなく、騒音が小さくなったり、気温を下げる効果があると知り、びっくりしました。

これからも歴史ある市電で楽しく通学しながら、学校生活を頑張っていきたいです。



尾堂 泰基くん

市長に聞く

鹿児島市電車運行100周年

（これから市民の笑顔をのせて）

■電車運行100周年に対する市長の思いをお聞かせください。

電車運行100周年に当たり、まずは市電の礎を築き、その運行に尽力してこられた多くの方々に深く敬意を表しますとともに、感謝を申し上げます。

また、時代の変化に伴い、国内の多くの路面電車が姿を消す中、大正元（1912）年12月1日の運行開始以来、100年もの間、運行を続けられたことは、ひとえに市民の皆さんの市電に対する愛着と大きな支えのたまものであると思っています。



森 博幸 市長

市電には多くの思い出を持つ市民の皆さんも多いのではないのでしょうか。私は子どもの頃、電停のある鴨池で生まれ育ちましたので、市電が走るまち並みには親しみと懐かしさを覚えます。

100年の歩みの中で、戦災や景気の好不況、モータリゼーションの進展など社会経済情勢がさまざまなに変化する中、市電は市民の皆さんの通勤や通学などの身近な交通手段として大きな役割を担うとともに、本市のまちづくりを支えてきたかけがえのない存在であると思います。

特に近年、環境問題が地球規模で社会問題化する中で、路面電車は省エネルギー、排気ガス抑制などの面から環境に優しい交通機関として見直されてきております。現在、全国で路面電車を運行しているのは19事業者と少ない中、市電の軌道敷緑化や架線のセンターポール化は本市の特色ある都市景観を形成しています。また、ユートラムなど乗り降りのしやすい超低床電車の導入などで、まちの回遊性と利便性の向上につながっています。まさに市電は本市のまちの「顔」と言っても過言ではありません。

■市電を活かした今後のまちづくりについてお聞かせください。

市電は、定時性・利便性の高い乗り物で、利用者にとって気軽に乗れる交通手段であり、本市における公共交通機関として重要な役割を担

うとともに、本市の魅力あるまちづくりや環境・観光面における大切な地域資源と言えます。

今月から電車運行100周年を記念する観光レトロ電車

「かごでん」の運行をスタートしました。またウオーターフロント地区への観光路線の新設に向けた調査・検討を行うなど、今後も人と環境に優しい市電は、将来にわたり公共交通機関としての重要な役割を担うものと期待しています。電車運行100周年に当たり策定した記念ロゴマークのデザインは、桜島とともに路面電車が本市のシンボルとなり、緑化された軌道上を未来永劫「無限（∞）」に走り続けることを表現したものです。これはこれまで100年間、市民の皆さんに愛され続けた路面電車を次の世代に引き継いでいくという決意の表れでもあります。

私はこれからも、市民の皆さんの貴重な財産である市電を本市のまちづくりに各面から活用し、さらなる発展につなげたいと考えています。



鹿児島中央駅前を走るユートラムⅡと100周年記念ロゴマーク